

これまでの議論・取組

1 背景

- 少子高齢化が今後ますます進展し、2040年には65歳以上の老年人口が35%を超えるという予測がある。

2 方向性・課題の検討

主に次の項目について、意見交換を実施し、部会の方向性を検討

- 高齢化や生産年齢人口の減少について
- 子育て環境について
- 麻生区の魅力について
- 空き家の増加について

意見交換の結果、検討すべき課題を大きく3つに整理

- ① 芸術・文化や緑、交通の利便性などの麻生区の魅力のPR不足
- ② 若い人の住まいとして、増加している空き家を利活用することが必要
- ③ 親や子が身近で遊べる場所や機会づくり、世代間の協力など、良好な子育て環境が必要

3 審議テーマの決定

3つの課題のうち、「③良好な子育て環境」は、「①麻生区の魅力」に含まれることから、本部会の審議テーマを次の2つに決定。

① 麻生区の魅力のブランド化とPR

- 審議内容 住まいとしての麻生区の魅力を掘り起こしてブランド化し、さらにその魅力の区外への幅広いPR
- 対象 麻生区への転入が最も望まれる、子育て世代を想定

② 空き家の利活用

- 審議内容 生産年齢の若い人たちが入り込んでくるようなまちにするための取組の一環として、区内で増加している空き家の利活用
- 対象 大学が多い麻生区の特徴を踏まえ、学生のための住まい（シェアハウス等）を想定

4 調査

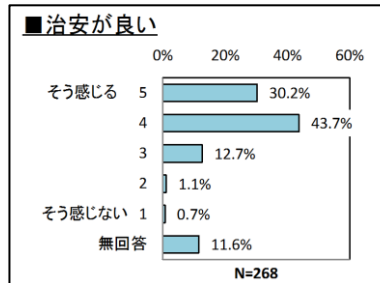
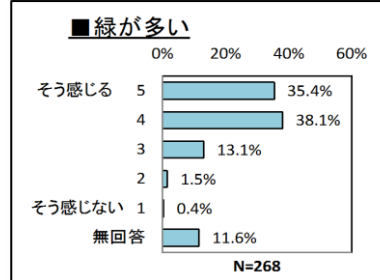
① 麻生区の魅力のブランド化とPR

1) 先進的な取組の調査

千葉県流山市の取組調査

- 流山市の取組調査の結果、魅力をPRするにはターゲットを設定し、魅力の情報発信を市内だけではなく、市外へ発信し、市外の人に流山市を知ってもらい、来てもらうことを目的としていることがわかった。

魅力をPRするターゲットを「30代～40代の子育て世代」に設定



2) 子育て世代の感じる魅力の調査

あさお子育てフェスタ内でのアンケート調査 (H27.9.13)

子育て世代の感じる麻生区の魅力を調査するため、あさお子育てフェスタ内で、運営スタッフとして参加しながらアンケート調査を実施。

- アンケート268件の内、子育て世代の感じる麻生区の魅力について、「緑が多い」が一番多く、次に「治安が良い」が多い。また、「人間関係が良い」、「交通の便が良い」も多い。
- 魅力の中でさらにPRしたらよいものとしても、緑が多い、治安が良いが多いことがわかりました。
- 想定していたより、麻生区の子育て世代は麻生区に魅力を感じていたことがわかった。また、区の特徴である芸術のまちについては、年齢が若いほど魅力として認識されていないと出たが、子育てフェスタのアンケート結果では、コンサートが非常に人気であった。
- このことから、若い世代の思う芸術・文化の意識とコンサートが一致していないのではないかということがわかった。

大学へのヒアリング調査を実施 (H27.10.6)

- 新百合ヶ丘周辺大学の学生からみた麻生区の印象について、安全で緑が多く、落ち着いているといった印象を持っている。

5 提言に向けた検討

① 麻生区の魅力のブランド化とPR

子育て世代の感じる魅力



- (1) 魅力資源の充実  
若い世代に向けて魅力をPRしていく上で、様々な魅力をより高める方策、資源の活かし方を検討
- (2) 若い世代に向けた魅力のPR  
区にある様々な魅力を効果的に若い世代にPRするため、キャッチフレーズの作成や区HPの改善などの取組を検討
- (3) 若い世代に向けた、魅力資源を持つ各主体の連携  
若い世代に向けて、魅力を伝えるため、様々な魅力資源を持つ各主体（団体等）が連携していくための仕組みを検討

② 空き家の利活用

- 調査の結果から、各大学の特色・事情によって、シェアハウス等のニーズが変わってくるということがわかった。
- 行政が最初に働きかけ、自治会などに空き家の情報提供を促し、その空き家情報をNPOなどに流していくことで、空き家を使いたい人とうまく繋げることができるのではないか。
- 空き家の事例について、既に実施しているところの実情を聞き、それを広く周知して対応を考えていくとよいのではないかと。

② 空き家の利活用

1) 市・まちづくり局の取組のヒアリングを実施

- 空き家の予防的取組として利活用・流通促進を検討している。
- 王禅寺と東百合丘でアンケートを行ったが、今後、同様の内容を平成27年第1回かわさき市民アンケートにて実施し、全体的な展開も検討する。

2) 不動産業者との意見交換を実施

- 空き部屋を貸してもよいという大家さんはいる（高齢者）。
- シェアハウスや地域のカフェのように活用したい場合は、人が集まりやすい、流れのある場所がよい。

3) 大学へのヒアリング調査を実施(10/6)

- 学生の住まいに関するニーズを探るため、4つの大学へヒアリングを行った。
- 日本映画大学では、シェアハウスについて学生にアンケートを実施しており、179名の回答のうち、71人がシェアハウスをしてみたいと回答している。また、現在URと百合丘団地等で調整をしている。
  - 昭和音楽大学では、寮への入所を勧めているが、シェアハウス等について、区役所の支援があれば、検討していく余地がある。



今後の取組

提言の具体的な内容の検討

フォーラムの検討・開催

提言の取りまとめ

提言（報告書作成）